

社会資本総合整備計画 中間評価書

平成 29 年 6 月 30 日

計画の名称	32 安全で快適なまちなみの形成																															
計画の期間	平成26年度～平成30年度（5年間）				交付対象	大阪市																										
計画の目標	<p>本地区は、老朽木造住宅が集積する密集市街地であり、都市計画道路をはじめとする公共施設の整備が不十分であるため、早急な都市基盤の整備が必要である。</p> <p>土地区画整理事業により、道路等の公共施設の整備改善を図ることで、快適でゆとりある住宅市街地の形成を行うとともに、防災性や安全性の向上を図り、都市居住が持つ魅力の高いまちづくりを進める</p>																															
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者の安全性・快適性の向上に関する効果便益を、H30年度末には128%向上するように整備を進める。</li> <li>安全で安心して暮らせるまちづくりに向け、被災時に安全な避難路が享受できる地域人口を4.4千人に増加するように整備を進める。</li> </ul>																															
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="3">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値</th> <th>中間目標値</th> <th>最終目標値</th> </tr> <tr> <th>H26 当初</th> <th>H28 末</th> <th>H30 末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 幅広歩道（2.5m以上）の整備による沿道の効果便益の向上を算定する。 「歩行者安全性・快適性向上率」＝（目標年次での効果便益－整備前（H26）の効果便益）／整備前（H26）の効果便益×100%</td> <td>0%</td> <td>28%</td> <td>128%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 避難路の整備延長をもとに、新たにその効果を享受することができる人口を算定する。 「安全避難享受人口」＝目標年次での避難路整備延長／避難路整備予定延長×地区内人口</td> <td>0.9千人</td> <td>1.7千人</td> <td>4.4千人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>												定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値	中間目標値	最終目標値	H26 当初	H28 末	H30 末	① 幅広歩道（2.5m以上）の整備による沿道の効果便益の向上を算定する。 「歩行者安全性・快適性向上率」＝（目標年次での効果便益－整備前（H26）の効果便益）／整備前（H26）の効果便益×100%	0%	28%	128%		② 避難路の整備延長をもとに、新たにその効果を享受することができる人口を算定する。 「安全避難享受人口」＝目標年次での避難路整備延長／避難路整備予定延長×地区内人口	0.9千人	1.7千人	4.4千人	
	定量的指標の現況値及び目標値			備考																												
	当初現況値	中間目標値	最終目標値																													
	H26 当初	H28 末	H30 末																													
① 幅広歩道（2.5m以上）の整備による沿道の効果便益の向上を算定する。 「歩行者安全性・快適性向上率」＝（目標年次での効果便益－整備前（H26）の効果便益）／整備前（H26）の効果便益×100%	0%	28%	128%																													
② 避難路の整備延長をもとに、新たにその効果を享受することができる人口を算定する。 「安全避難享受人口」＝目標年次での避難路整備延長／避難路整備予定延長×地区内人口	0.9千人	1.7千人	4.4千人																													
全体事業費	合計 (A+B+C)	13,015百万円	A	13,015百万円	B		C		効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%																						
<b>事後評価（中間評価）</b>																																
○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期																																
中間評価の実施体制						事後評価（中間評価）の実施時期																										
大阪市において評価を実施						平成29年4月																										
						公表の方法																										
						大阪市ホームページ																										
1. 交付対象事業の進捗状況																																
交付対象事業																																
A1 基幹事業（道路事業）																																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)		事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考														
								H26	H27			H28	H29	H30																		
32-A1	街路	一般	大阪市	直接		区画	改築	0.55	淡路駅周辺地区	区画整理（8.9ha）	大阪市						1,369															
32-A2	街路	一般	大阪市	直接		区画	改築	0.55	三国東地区	区画整理（39.1ha）	大阪市						11,646															
小計（道路事業）											13,015																					
B 関連社会資本整備事業																																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略工種	要素となる事業名		事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考															
							H26	H27			H28	H29	H30																			
合計																																
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考																					
C 効果促進事業																																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略工種	要素となる事業名		事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考															
							H26	H27			H28	H29	H30																			
合計																																
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考																					

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>歩車道分離及び幅広歩道の整備により、歩行者の安全性・快適性が向上した。</li> <li>施行地区内の道路整備に伴い、安全な避難路を享受できる人口が増加した。</li> </ul>			
II 定量的指標の達成状況	指標①（歩行者 安全性・快適性 向上率）	中間目標値	28%	目標値と実績値 に差が出た要因	道路整備工事については当初予定通り発注したものの、関係機関との調整に時間を要し、一部路線の完成時期が平成29年度にずれ込んだため。
		中間実績値	14%		
	指標②（安全避 難享受人口）	中間目標値	1.7千人	目標値と実績値 に差が出た要因	
		中間実績値	1.3千人		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)					
3. 特記事項（今後の方針等）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>最終目標値が達成できるよう着実に事業進捗を図る。</li> </ul>					

